

文 化

1. 施策の方向性

- (1) 市民一人一人が文化の担い手として、特色ある市民文化の創造をめざした文化振興に努めるとともに、子どもの頃から身近に多様な文化芸術や伝統芸能を鑑賞し、体験できる機会を持てる環境づくりを行うことにより、創造力豊かで、感動する心を育て、次代を担う「人づくり」施策に努める。
- (2) 優れた文化芸術や伝統芸能に触れ親しむ機会の充実と文化施設の充実・活用を図るとともに、地元の文化団体等に練習成果の発表の機会を提供するなどの文化活動の支援を行い、そのことにより、市民の文化団体・本市の文化を育む人材の育成を図る。また、より多くの市民が鑑賞、参加できるような効果的な広報等に努める。
- (3) 市民が生涯を通じて文化芸術に触れ、楽しめるような文化施設の整備に努め、市民の多様なニーズに対応するとともに、より多くの様々な文化芸術に触れる機会の提供に努める。
- (4) 市内各施設の収蔵品、史跡・文化財、伝統工芸品などの貴重な歴史・文化資産の情報をインターネットにより情報発信することで、それらの資産の素晴らしさを再認識してもらうとともに、魅力のアピール、観光客誘致の宣伝素材としての活用などに努める。
- (5) 未来に継承すべき文化財の保護を図るとともに、本市が管理する文化財の補修・整備を行い、文化財を学習や観光などに活用できる場として提供し、その情報についても各種手法により、広く市民に提供する。
- (6) 発掘した遺跡の公開や発掘成果の積極的公開を進め、学習や体験活動の場として提供する。
- (7) 郷土芸能を後世まで正しく伝承し、地域の絆を保ち、郷土愛を高めるとともに、文化財に対する理解と関心を深める必要がある。
- (8) ふるさと考古歴史館等を活用しながら、本市の歴史・文化に対する市民の理解を深め、文化財愛護思想の高揚を図るとともに、文化財の保護と活用を努める。
- (9) 「九州・山口の近代化産業遺産群」の世界文化遺産登録を目指す。

2. 事業の概要

- (1) 文化振興
 - ① 市民文化祭
毎年、9～12月に市民文化祭を開いている。
謡曲連合大会、いけばな展、薩摩琵琶演奏大会、茶会、南日本短歌大会、邦楽演奏会、詩吟剣舞道大会、薩摩狂句大会、南日本俳句大会、オペラ公演、バレエ公演、写真展
 - ② ふるさと芸能祭
郷土に伝わる民俗芸能を掘り起こし、広く市民に公開し、伝統芸能に対する理解を深めるとともに、郷土を愛する心を高める。
出演者 郷土芸能保存団体等
 - ③ 文化事業の共催
市内の文化団体と共催で文化事業を実施し、芸術文化鑑賞の機会を拡充するとともに文化団体の育成に資する。
 - ④ 鹿児島市少年少女合唱団の育成（昭和48年12月設立）
鹿児島市に在住する少年少女による合唱団を育成し、その演奏活動を通じ、本市児童文化の向上、情操の陶冶を図るとともに音楽文化の向上に寄与する。
 - ⑤ 椋鳩十児童文学賞
市制施行百周年を記念し、日本を代表する児童文学者椋鳩十氏の業績を永く顕彰するとともに、児童文学の発展に寄与するため平成2年に創設した。鹿児島にあって地方色豊かな数々の名作を発表された椋氏の偉大な功績を讃え、新人の児童文学作品を対象にすることにより、次代を担う児童文学者の発掘を行う。
 - ⑥ 鹿児島芸術鑑賞事業
中央と地元の文化芸術団体による児童生徒などを対象とした芸術鑑賞事業を行い、特に、子どもたちの表現力やコミュニケーション能力の向上を図るため、参加体験型のワークショップ方式を実施するとともに

に地元の文化団体の育成に資する。

引き続き、旧5町域の方々に芸術に親しむ機会を提供するとともに、22年度から、鹿児島市在住の児童生徒とその保護者を国内外の優れた舞台芸術鑑賞事業に無料招待する。

⑦ 郷土芸能保護事業

現在保存されている郷土芸能が正しく伝承されるよう、使用する道具や衣装の補修等と運営に要する費用に補助を行う。

⑧ 歴史・文化資産のデジタル化推進

貴重な歴史・文化資産をはじめとして、市内の文化財や伝統工芸品などの情報のデジタル化を進め、インターネットにより情報発信する。

⑨ 文化薫る地域の魅力づくりプラン推進事業

平成23年度に策定した「文化薫る地域の魅力づくりプラン」に基づき、美術、音楽、地域伝統芸能といった本市ゆかりの文化を生かした元気な地域づくり・人づくりにつながる取組を実施する。

(2) 文化財の保護と活用

① 指定文化財の保護・管理

市内には国指定文化財23件、県指定52件、市指定87件の計162件の指定文化財と20件の国登録文化財がある。市指定文化財については、昭和47年4月に制定された「鹿児島市文化財保護条例」に基づき保護管理を実施し、文化財指定については、文化財審議会の委員等による学術調査、審議を経て市指定を行っている。

また、「喜入のリュウキュウコウガイ産地」、「異人館」、「旧島津氏玉里邸庭園」など本市が管理する国指定文化財については、補修・整備を行い、文化財の保存と活用を積極的に推進する。

② 埋蔵文化財の保護

各種開発事業に伴う発掘調査を実施するとともに、発掘した遺跡の公開や発掘成果の積極的公開を進める。

③ 文化財の活用

地域で育まれてきた文化財の調査の結果を整理し、「史跡めぐりガイドブック」、「鹿児島市遺跡分布図」、「デジタルミュージアム」等の各種手法により広く市民に情報を提供し、生涯学習や学校教育の場で活用できるように努める。

④ 郷土芸能の保護

郷土芸能団体の活動支援を経費助成等により、計画的に継続して実施するとともに、郷土芸能の映像等についても記録・保存を図る。

⑤ ふるさと考古歴史館の活用

ふるさと考古歴史館について、資料収集等の充実と活用に努めるとともに、企画展の開催や体験学習等を実施する。

⑥ 近代化産業遺産の保存・活用

「九州・山口の近代化産業遺産群」の構成資産の保存・活用に努め、関係自治体等と連携・協力を図りながら世界文化遺産登録を目指した取組を進める。

⑦ 明治維新150年カウントダウン事業

明治維新150年（平成30年）に向けてのカウントダウン事業として、その年ごとに、近代日本の礎を築いた鹿児島に関わりが深い出来事を題材とするイベント等を開催し、郷土の歴史に対する理解と関心を深めてもらうとともに、広く情報発信する。

ふるさと考古歴史館

ふるさと考古歴史館は、先人の残した文化遺産の調査、研究及び展示を通して、本市の歴史に対する市民の理解を深めるとともに、個性豊かな市民文化の創造に資するための施設として運営されている。

1. 施設の概要

- (1) 開館 平成9年4月17日
- (2) 所在地 下福元町3763番地1（慈眼寺公園内）
- (3) 延床面積 3,194.56㎡
- (4) 建物構造 鉄筋コンクリート造2階建
- (5) 施設 1階 常設展示室 事務室 復元整理作業室 収蔵庫
2階 導入展示室 企画展示室 図書室 会議・視聴覚室
体験学習室

2. 利用の案内

- (1) 開館時間 午前9時から午後5時まで
- (2) 休館日 月曜日（休日のときは翌日）
12月29日から1月1日まで
- (3) 観覧料

区 分	個 人	団体（20人以上）
一般（高校生以上）	300 円	240円
小・中学生	150 円	120円
年間観覧券 一般	600 円	-
年間観覧券 小・中学生	300 円	-

- 小学校に就学するまでの方は、無料です。
- 特別企画展観覧料は、その都度定めます。

3. 特 色

(1) 常設展示

鹿児島市の人々の暮らしの歴史と町の発展の歴史を、埋蔵文化財を通じて紹介し、単に出土品を陳列するだけでなく、市民に分かりやすく親しみが持てるよう最新の各種映像・音響機器やソフトを駆使し、市民参加体験型の展示を行う。

鹿児島を発掘する（導入展示）

考古ギャラリー N. G. マンロー 鹿児島の地層

鹿児島の考古学の祖 N. G. マンローのロボットにより、埋蔵文化財の魅力と発掘調査風景を紹介し、埋蔵文化財の世界へ誘う。

また、考古の基本となる鹿児島の地層を紹介するとともに鹿児島の地形、地質、気候等の変化を紹介する。原始・古代人の知恵

縄文の夜明け－掃除山の人々 旧石器時代▷縄文時代

タッチ・ミー タイムスリップ縄文人！ 草野貝塚と集落

土器クイズ 弥生時代▷古代 誇りと勇気－熊襲・隼人

国内最古の集落のひとつである掃除山遺跡を国内最大級の大型模型で復元し当時の人々の暮らしを紹介する。

また、草野貝塚からの大量の出土品を中心に、食料の確保から調理、装身具の使用例などを紹介するとともに、縄文時代の人々の暮らしをマルチ映像により再現する。

各時代の遺跡からの出土品を紹介し、あわせて、土器、石器等の道具の製作、使用方法等を各種映像機器により紹介する。

先人達の努力

中世▷近世 鹿児島城下町めぐり 絵図検索 地名検索

中世の山城、城と城下町の変遷を模型や映像により紹介するとともに、陶磁器製品等の出土品により人々の生活を紹介する。

また、「天保年間鹿児島城下絵図」を背景に当時の人々の暮らしや当時の町並みの状況、町名の由来などを紹介する。

さあ出発！（導出展示）

ビデオライブラリー 鹿児島市内の主な史跡 考古博士

市内の遺跡の状況、概要を紹介する。

展示用ガイドシートの答え合わせを行い、「考古博士」の認定証を授与する。

屋外体験ゾーン

縄文・弥生時代復元住居 高床式建物復元 復元集石

原始・古代の住居等を実物大に復元するとともに、古代服の着用体験を行う。

(2) 企画展

「古代からのメッセージ～市内遺跡の発掘調査速報展～」

平成24年3月3日（土）～平成24年6月3日（日）

- ・ 平成22年度の発掘調査で出土した資料を展示し、鹿児島市内の身近な遺跡や文化財に親しみをもってもらおう。

「タイムトラベル！昭和の学校へ行こう！！」

平成24年6月30日（土）～8月31日（金）

- ・ 昭和40～50年代（親世代）を中心に、20～30年代（祖父母世代）も含め、学校で使われていた学用品や教具などの実資料、当時の写真等をもとに、学校の様子を紹介する。

特別企画展「平安時代の鹿児島よみがえ－甦りし“こだい”の景色，“もの”の煌めき－」

平成24年9月15日（土）～12月2日（日）

- ・ 不動寺遺跡を中心とした鹿児島市域や鹿児島県内における古代の遺跡を紹介する。

「かごしまの土人形」（仮称）

平成24年12月15日（土）～平成25年3月10日（日）

- ・ 伝統的な技法によって製作された鹿児島県内各地の土人形を中心に展示する。

「古代からのメッセージ～鹿児島市内遺跡の発掘調査成果展～」（仮称）

平成25年3月23日（土）～6月2日（日）

- ・ 平成23年度の発掘調査で出土した資料やこれまで展示機会の少なかった資料を展示し、鹿児島市内の身近な遺跡や文化財に親しみをもってもらおう。

(3) 図書室

考古、歴史に関する専門書、児童図書、郷土関係図書などの蔵書約2,000冊を備えている。

(4) 会議・視聴覚

考古、歴史に関するビデオ上映や講演会などを行う。

(5) 体験学習室

古代の生活の一部を体験してもらうため「勾玉づくり」、「土器づくり」、「土笛・土鈴づくり」などの体験学習を行う。

4. 利用者実績

(単位：人)

年 度		H19	H20	H21	H22	H23
常 設 展 示 観 覧 者	有 料	7,329	10,116	11,814	9,614	7,103
	無 料	8,347	10,308	11,157	10,886	9,866
	計	15,676	20,424	22,971	20,500	16,969
そ の 他 入 館 者		55,525	59,090	69,256	65,658	62,864
合 計		71,201	79,514	92,227	86,158	79,833

かごしま近代文学館・かごしまメルヘン館

かごしま近代文学館及びかごしまメルヘン館は、鹿児島にゆかりのある作家を中心に、遺品・遺墨・初版本・自筆原稿の展示のほか、作家と鹿児島とのかかわりなどを紹介する「かごしま近代文学館」と、世界の童話・民話等を人形・映像その他により演出する「かごしまメルヘン館」との複合施設であり、本市の文学の振興及び文化の向上を図っている。

平成22年度に展示施設の全面改修を行い、子どもから大人まであらゆる世代が、さらに興味を持ち、魅力を感じる施設として、23年3月にリニューアルオープンした。

1. 施設の概要

- (1) 開館 平成10年1月29日
- (2) 所在地 鹿児島市城山町5番1号
- (3) 延床面積 5,874.31㎡
- (4) 構造規模 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地下1階地上3階建
- (5) 館内案内
 - ①かごしま近代文学館
 - 〔地下1階〕 収蔵庫, くん蒸室, 守衛室など
 - 〔1階〕 鹿児島情熱絵巻, ゆかりの作家たちの情熱, 文学アトリエ, ライブラリー, 事務室, 喫茶室
 - 〔2階〕 鹿児島文学の群像, 向田邦子の世界, 文学ホールなど
 - ②かごしまメルヘン館
 - 〔地下1階〕 わくわくスタジオ, メルヘンホールなど
 - 〔1階〕 おはなしのまち, おはなしの散歩道, 親子読書コーナー
 - 〔2～3階〕 おはなしの散歩道, 絵本のお城

2. 利用の案内

- (1) 開館時間 午前9時30分から午後6時まで（入館は午後5時30分まで）
- (2) 休館日 火曜日（休日のときは翌日）
12月29日から1月1日まで
- (3) 観覧料

区		分	個人	団体 (20人以上)
常設展示	近代文学館	一般	300円	240円
		小・中学生	150円	120円
		年間観覧券一般	600円	—
		年間観覧券小・中学生	300円	—
	メルヘン館	一般	300円	240円
		小・中学生	150円	120円
		年間観覧券一般	600円	—
		年間観覧券小・中学生	300円	—
	共通	一般	500円	400円
		小・中学生	250円	200円
		年間観覧券一般	1,000円	—
		年間観覧券小・中学生	500円	—

・共通…近代文学館とメルヘン館の共通券 ・未就学児は無料 ・団体は20人以内

3. 特 色

(1) かがしま近代文学館

①「ゆかりの作家たちの情熱」

鹿児島ゆかりの5人の創作にかけた情熱を、様々なテーマの下、ジオラマや文学資料、遺愛の品々等とおして紹介する。

②「文学アトリエ」

「ことばアトリエ」で、ことば遊びができる映像装置、ワークショップをおして、楽しみながらことばの世界に触れられ、また、「本のひろば」で、歴代の「椋鳩十児童文学賞」受賞作品や館お薦めの本などをくつろぎながら読むことができる。

③「鹿児島文学の群像」

鹿児島ゆかりの22人の作家を紹介。また、様々なテーマで収蔵品展や企画展などを開催する。

④「向田邦子の世界」

原稿等の直筆をはじめ、遺愛の品々展示し、向田の面影をたどり、その作品世界を紹介している。

⑤「文学ホール」(定員：200名)

文学講演会などの催しや様々な企画展を開催する。

⑥「ライブラリー」

鹿児島ゆかりの文学作品や文学雑誌等を自由に閲覧できる。

(2) かがしまメルヘン館

①「わくわくスタジオ」

オリジナルのお話を完成させていく「まっしろな絵本」があり、また、世界各地の民族人形や日本各地の郷土玩具など様々な人形を展示している。

②「おはなしのまち」

童話に出てくるお家やミニアスレチックなどで遊びながらお話の世界を楽しめる。

③「おはなしの散歩道」

『不思議の国のアリス』の世界をトリックアートなどで楽しめる。

④「絵本のお城」

お気に入りの絵本を手にとって読むことなどができる。

⑤「親子読書コーナー」

童話や絵本等をそろえ、親子でくつろぎながら読書に親しめる。

・毎週月曜日「おはなしのじかん」 ・毎週土曜日「えほんのじかん」

・毎月第2土曜日「メルヘンおはなし会」

⑥「メルヘンホール」(定員：100名)

大型絵本を用いたおはなし会など親子を対象にした催しの開催。

・毎月第2金曜日「わらべうた教室」 ・毎月第4土曜日「メルヘンワークショップ」

4. 利用者実績

(1) 近代文学館

(単位：人)

年 度		H19	H20	H21	H22	H23
常設展示 観覧者	有 料	9,065	8,637	8,348	1,401	11,702
	無 料	11,140	12,070	8,870	3,217	14,418
	計	20,205	20,707	17,218	4,618	26,120
その他入館者		30,409	27,799	26,312	7,365	23,215
合 計		50,614	48,506	43,530	11,983	49,335

※ 平成22年7月5日から23年3月29日まで休館

(2) メルヘン館

(単位：人)

年 度		H19	H20	H21	H22	H23
常設展示 観覧者	有 料	32,109	29,165	38,907	5,954	67,746
	無 料	26,454	23,405	27,518	6,479	50,514
	計	58,563	52,570	66,425	12,433	118,260
その他入館者		62,032	65,347	59,094	11,896	44,800
合 計		120,595	117,917	125,519	24,329	163,060

※ 平成22年7月5日から23年3月29日まで休館

旧鹿児島紡績所技師館(異人館)

1. 沿革

旧鹿児島紡績所技師館は、鹿児島藩が建設した鹿児島紡績所（日本最初の洋式紡績工場）に招かれたイギリス人技師7名の宿舎として慶応3（1867）年に建設された木造2階建ての洋館で、「異人館」と呼ばれている。

わが国における初期洋風建築の代表的な建物で現存する数少ないものの一つとして、建物は国指定重要文化財、また、敷地の一部は国指定史跡となっている貴重な文化財である。

耐震補強工事を経て、平成23年10月に、イギリス人技師が暮らしていた当時の室内を家具の配置等により再現し、本市が取り組んでいる「九州・山口の近代化産業遺産群」の世界文化遺産登録への取組などを紹介した解説パネルを設置するなどしてリニューアルオープンした。

2. 施設の概要

- (1) 所在地 吉野町9685番地15
- (2) 開館時間 午前8時30分～午後5時30分
- (3) 休館日 年中無休
- (4) 入館料

区 分	個 人	団 体 (20人以上)
一 般	200円	160円
小・中学生	100円	80円

旧島津氏玉里邸庭園

1. 沿革

島津家第27代当主島津斉興が天保6年（1835年）に築庭されたといわれる南九州を代表する大名庭園。当初は現在の鹿児島女子高等学校グラウンドに別邸「玉里邸」もあったが戦禍で焼失し、茶室と黒門、長屋門を残すのみとなった。書院座敷から眺める「上御庭」と回遊式の「下御庭」の2つの庭園から成り、平成19年7月に国の名勝に指定された。

平成20年度から、庭園の本来の魅力を取り戻すように整備を行っており、平成23年4月から「下御庭」のみ一般公開を行っている。

2. 施設の概要

- (1) 所在地 鹿児島市玉里町3382番イ（鹿児島市立鹿児島女子高等学校内）
- (2) 開園時間 午前9時～午後5時（入園は午後4時30分まで）
- (3) 休園日 毎週火曜日（火曜日が休日の場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月1日）
- (4) 入園料 無料

西郷南洲顕彰館

1. 現 況

(1) 設置の経緯

西郷南洲顕彰館は、西郷隆盛（南洲翁）を中心とする明治維新の先覚者たちの、国家・社会に尽くされた偉業を後世に伝えるとともに、新しい時代を担う青少年の人間形成に役立てるため、西郷南洲翁を慕う全国の方々からの寄付により建設された施設で、昭和53年6月に鹿児島市に寄贈され、開館したものである。施設の利便性向上のため、平成22年4月にリニューアルオープンした。

(2) 所在地

鹿児島市上竜尾町2-1（南洲公園内） TEL247-1100・FAX247-3373

(3) 施設の概要

① 本 館

- ・開 所 昭和53年7月1日
- ・延床面積 550.83㎡
- ・構造規模 鉄筋コンクリート造2階建（一部地階）

② 別館展示学習室

- ・開 所 平成13年4月1日
- ・延床面積 230㎡
- ・構造規模 鉄筋コンクリート造平屋

2. 利用の案内

- (1) 開館時間 午前9時から午後5時まで（入館は午後4時30分まで）
- (2) 休館日 月曜日（祝日の場合はその後の最初の平日）、12月29日から1月1日まで
- (3) 入館料

公園名	名 称	入 館 料	摘 要
南洲公園	西郷南洲顕彰館	一 般 200円 小・中学生 100円	団体20人以上2割引

※ 未就学児は無料です。

3. 主な展示物

- (1) 西郷隆盛の生涯（ジオラマ）
- (2) 烏津28代藩主斉彬公の功績
- (3) 映像ライブラリー「西郷隆盛の一生」
「西南戦争」「徳の交流」他
- (4) 西郷隆盛の衣服、遺品、肖像画
- (5) 西郷隆盛の墨跡
- (6) 西南戦争関係資料、銃弾、旗、写真等
- (7) 西郷南洲遺訓集などの関係図書

4. 入館者数

（単位：人）

年度	大 人	小 人	小 計	大人無料	小人無料	小 計	合 計
19	16,098	1,444	17,542	3,516	2,872	6,388	23,930
20	21,368	1,803	23,171	3,389	2,348	5,737	28,908
21	2,083	104	2,187	6,115	2,257	8,372	10,559
22	10,598	1,284	11,882	3,195	1,281	4,476	16,358
23	11,123	841	11,964	2,780	2,578	5,358	17,322

※ リニューアルに伴う工事のため、平成21年7月～平成22年4月は別館で、無料展示を行った。

美術館

1. 沿革

美術館の敷地は、薩摩藩主島津氏の居城であった鶴丸城二の丸跡の一部である。明治年間から昭和の初期にかけて、ここに市役所があったが、昭和12年に移転し、そのあとに藤武喜左衛門氏の遺族の寄付を基金として、昭和14年7月20日、歴史館が完成した。

しかし、第二次世界大戦の終わりに間近い昭和20年6月17日夜の空襲により外かくを残して炎上した。幸いなことに館藏品は疎開してあったため、大半は難をまぬがれた。

戦後、歴史館の復旧にあたって、美術館建設の世論が高まり、美術家を中心とする美術館建設期成同盟会の尽力と当時の市長、勝目清氏と市議会の英断により、美術館建設が決定され、昭和29年9月1日に開館した。

昭和32年6月には岩崎与八郎氏の寄付により別館が建設され、郷土の美術、工芸作品の収集展示、特別展その他の展覧会、美術教室等の開催、美術団体等に対する展示場の貸与などの各種事業を通じて美術文化の振興に寄与し、ユニークな地方美術館として全国的にも知られていた。

しかし、近代美術館としての活動を拡充しようとするとき、施設設備その他の面で不十分であった。このような状況を改善するため、昭和53年の美術館建設調査会の答申の趣旨を基調に、南九州の美術文化発展の一拠点として機能する美術館を建設することとして建設計画を進めた結果、旧美術館を解体した跡地に新美術館を建設することに決定して、昭和58年10月に工事着工、昭和60年3月30日竣工し、昭和60年10月29日開館した。

2. 施設の概要

(1) 開館 昭和29年9月1日（昭和60年10月29日新美術館開館）

(2) 所在地 城山町4番36号（☎224-3400）

(3) 開館時間 午前9時30分から午後6時まで（入館は午後5時30分まで）

(4) 休館日 月曜日（祝日のときはその翌日）
12月29日から翌年1月1日まで

(5) 建設規模

- ① 敷地面積 6,842.83㎡
- ② 建築面積 2,590.23㎡
- ③ 延床面積 5,469.49㎡
- ④ 構造 鉄筋コンクリート造
- ⑤ 規模 地下1階，地上3階
- ⑥ 総工費 約23億円

(6) 主な施設

〔地下〕講堂，市民アトリエ(1)×2，展示ロビー，機械部門

〔1階〕エントランスホール，一般展示室(1)×2，収蔵庫(1)，アトライブラリー，研究調査部門，事務管理部門，搬出入部門

〔2階〕常設展示室(1)×2×3，企画展示室，収蔵庫(2)×3×4，喫茶コーナー

〔3階〕機械部門

① 部門別面積表

部門	面積	構成比	備考
展示部門	1,740.80㎡	31.83%	常設展示室，企画展示室，一般展示室，展示ギャラリー，展示ロビー
所蔵部門	707.89	12.94	収蔵庫，修理工作室，燻蒸室，写場
搬出入部門	254.74	4.66	搬出入車庫，搬出入室，作品仮置場，梱包倉庫
研究調査部門	116.08	2.12	学芸員室，書庫資料室，研究調査室
教育普及部門	434.74	7.95	講堂，市民アトリエ，アトライブラリー
事務管理部門	253.57	4.64	館長室，応接室，事務室，会議室，警備員室，印刷室
共用部門	1,166.99	21.33	エントランスホール，喫茶コーナー，休憩コーナー，エレベーター，廊下，階段
電気機械部門	794.68	14.53	
計	5,469.49	100.00	

② 展示室面積・壁面長さ

展示室名	面積	壁面の長さ			
		固定	可動	計	
常設	483.81㎡	80.4m	30.0m	110.4m	
企画	229.83	45.0	26.0	71.0	
貸展示室	一般 1	289.51	57.8	36.0	93.8
	一般 2	372.31	81.5	41.0	122.5
	展示ロビー	128.10	23.4	22.9	46.3
	講堂	129.71	0	18.8	28.8
	計	919.63	162.7	128.7	291.4
合計	1,633.27	288.1	184.7	472.8	

3. 基本方針

美術品の収集保存，常設展，企画展の実施，教育普及活動の充実等，美術館活動の積極的な推進を図り，市民の美術に対する関心と理解を深め，開かれた美術館の運営に努める。

- (1) 常設展，企画展の内容の充実を図り，すぐれた美術品の紹介に努める。
- (2) 収蔵美術品の充実・保存に努め，美術館としての機能を高める。
- (3) 学術的な調査研究を深め，美術館活動の内容の充実に努める。
- (4) アートライブラリーの整備，美術教室の開催，美術講演会の開催等，教育普及活動の充実に努める。
- (5) 美術団体等が開催するすぐれた美術展覧会の誘致を図る。

4. 事業の概要

(1) 常設展

小企画展と連動し，季節ごとにテーマを設けて特集展示を行い，できるだけ多くの収蔵品の展示に努めている。

① 郷土美術

黒田清輝，藤島武二，和田英作などの日本近代洋画，木村探元などの日本画，新納忠之介，安藤照などの彫刻，薩摩焼や薩摩切子の伝統工芸と宮之原謙などの近代工芸のほか，桜島が描かれた作品も展示している。

② 西洋美術

モネ，ピサロなどの印象派からセザンヌ，マチス，ピカソ，ダリ，カンディンスキー，デュビュッフエ，ステラ，ウォーホルへと続く西洋絵画とロダン，アーキペンコ，マリーニなどの彫刻を展示している。

(2) 特別企画展

① ポール・デルヴォー展 ―夢をめぐる旅―

平成24年7月20日～9月2日

シュルレアリスム（超現実主義）の巨匠として知られるベルギー出身の画家ポール・デルヴォー（1897～1994）が，初期の写実的な作風からスタートし，表現主義的な時代を経てシュルレアリスムと出会い，独自の幻想的な作風にたどり着くまでの変遷を，日本初公開作品を含む油彩画，水彩画，素描，その他資料を合わせた約100点で紹介する。

② 大桜島公募展 全国公募！桜島大賞〈平面・写真・文芸〉

平成24年10月12日～11月4日

桜島大正噴火100周年イベントとして，「平面（絵画など）・写真・文芸（フォト俳句）」の各部門で「桜島」をテーマとした作品を募集する全国公募展を開催する。桜島を描く，撮影するなど桜島が主題となった作品や桜島を訪れて描いたり撮影したりした作品，桜島をイメージ化した作品などを得意の分野で応募いただき，入選作品を一堂に展示することで県内外に桜島の新しい魅力を発信する。

(3) 小企画展

① 異国を描いた画家たち 平成24年4月1日～5月13日

藤島武二，和田英作など，郷土にゆかりのある近・現代作家が異国の風物を描いた作品を紹介し，画家たちを魅了した，情緒あふれる異国の風情をお楽しみいただく。

- ② 鹿児島伝来の絵画資料 平成24年5月29日～7月16日
江戸から明治にかけて、鹿児島では多様な絵画が描かれてきた。鹿児島では数少ない仏画をはじめ、文人や武人の肖像画、戦記絵巻、そのほか絵師たちの作品を紹介する。
- ③ マチスの《ジャズ》 平成24年9月6日～9月30日
1947年に出版されたアンリ・マチスの版画集《ジャズ》から全20作品を展示し、マチスが追究した、色と形のリズムカルな調和をお楽しみいただく。
- ④ 山口長男の世界 平成24年11月8日～12月24日
日本での抽象絵画のパイオニアとして知られる山口長男の生誕110年を記念し、油彩画、素描、彫刻、陶器絵付など34点で、モチーフの本質的な部分を観察して生まれた山口の作品を紹介する。
- ⑤ 没後10年 帖佐美行の用と美 平成24年12月26日～平成25年2月11日
彫金作家、帖佐美行による、自然への深い愛情や賛美が感じられる彫金作品13点と彫金下絵20点あまりを展示し、「用と美」の調和を求めた創造の魅力に迫る。
- ⑥ 木脇啓四郎描く 平成25年2月13日～3月31日
幕末に薩摩藩の官僚として活躍し、維新後は博覧会の産物調査や『覽海魚譜』の編集に携わるなど多彩な文化活動を展開した木脇啓四郎の業績を紹介する。鹿児島大学との共同企画展。

(4) 館外展＜蔵出し美術館＞

- ① 黒薩摩の魅力
平成24年7月2日～7月13日（みなと大通り別館 市民アートギャラリー）
所蔵品の薩摩焼から、落ちつきのある重厚な質感が魅力的な黒薩摩を紹介する。
- ② 近代洋画の三巨匠
平成24年12月7日～12月17日（谷山サザンホール展示室）
近代洋画に大きな足跡を残した郷土ゆかりの作家から、黒田清輝、藤島武二、和田英作を紹介する。

(5) 共催展

- ① 第59回県美展 平成24年5月19日～5月27日
② 第63回高美展 平成24年12月10日～12月24日

(6) その他の主な展覧会

南日本ジュニア美術展、鹿光展、南日本美術展、鹿児島水彩展

(7) 年度別観覧者状況

(単位：人)

年度	美術館主催		貸 館			蔵出し美術館	合計
	有 料 展		無 料 展				
	常設展	企画展	その他	一般展示室	地下展示室		
14	75,573	83,154	39,503	27,649	30,995		256,874
15	42,069	31,416	29,975	19,514	28,650		151,624
16	39,748	28,567	33,851	23,629	26,522		152,317
17	41,876	32,099	22,964	21,989	27,697		146,625
18	35,964	29,675	27,053	28,760	27,673		149,125
19	39,908	33,581	29,828	25,323	25,050		153,690
20	38,962	24,342	24,415	40,242	30,041	3,132	161,134
21	43,004	35,044	23,461	41,169	27,440	2,387	172,505
22	66,686	61,358	13,634	35,501	25,955	3,319	206,453
23	48,031	44,145	35,325	25,949	29,244	1,970	184,664

(8) 美術講座・講演会

美術講座

期 日	内 容	講 師	募集人数
5月5日	美術館こども探検	渡邊眞一郎館長及び学芸員	10人 (小4～小6)
6月17日	日曜美術講座 「切り絵入門講座～紙と刀でつくる シャープな造形美～」	切り絵作家 篠崎眞康氏	20名(中学生 ～一般)
8月5日	ポール・デルヴォー展 記念ワークショップ 「コラージュでつくる不思議な絵画」	加治木高校教諭 祝迫正豊氏	20名(小4 ～中学生)
8月19日	夏休みワークショップ 「プラモデル塗装ウラわぞ教室」	プラモデル作家 岩重賢司氏	20名(小学生 以上、小3以 下は保護者同 伴)
9月23日	日曜美術講座「銅版画入門～モノト ンの表現に挑戦～」	銅版画家 鶴留一文氏	20名(中学生 ～一般)
10月14日	大桜島公募展 記念ワークショップ 「親子でつくる桜島スイーツ大作戦!!」	管理栄養士 長友ゆかり氏	12組(保護者 同伴の小中学 生)
11月25日	経験者実技講座 「ステップアップ人物画講座」	二科会鹿児島支部長 西健吉氏	20人(人物画 経験者)
1月27日	日曜美術講座 「木工入門～自然木でつくる癒しのカ トラリー～(仮称)」	木工作家 風間信秀氏	25名
2月24日	日曜美術講座 「型染め入門～草木で染める美の文様 ～(仮称)」	染色作家 豊久美子氏	20名

美術講演会

期 日	内 容	講 師
7月22日	ポール・デルヴォー展 記念講演会 「ポール・デルヴォーの不思議な〈旅〉」	美術評論家・明治学院大学名誉教授 巖谷國士氏
10月21日	大桜島公募展 記念講演会 演題未定	国立国際美術館館長 山梨俊夫氏
12月2日	地元講師講演会「薩摩焼の伝統」	陶芸家 薩摩焼15代 沈壽官氏

学芸講座

期 日	内 容	担 当 学 芸 員
8月19日	特別企画展「ポール・デルヴォーの生涯と作品」	安永めぐみ
10月27日	特別企画展「大桜島公募展」関連	松下幸男
12月16日	未定	田村桂子
3月10日	小企画展「木脇啓四郎描く」関連	山西健夫

ギャラリートーク・ビデオギャラリー

毎週土曜日 14時～	所蔵品展示作品の解説・関連ビデオの上映	美術館学芸員
------------	---------------------	--------

(9) 美術品収集保存・調査研究

絵画・彫刻・工芸等の各分野における代表的郷土作家の作品およびその系譜に関係あるもの、または鹿児島市の美術文化の振興に寄与する西洋近現代美術の作品を収集するとともに、学術的な調査研究、収蔵品の整理、点検、修復に努めている。

(10) その他

① 美術館協議会

美術館の運営に関して、館長の諮問に答える。平成17年度から市民公募による委員2名を加える。
昭和60年4月1日設置 委員10人

② 美術品選定委員会

館長の諮問に応じて、収集しようとする美術品の選定について審議する。
昭和59年4月1日設置 委員5人 構成 学識経験者

③ 美術館友の会

美術鑑賞，研究，制作，活動などにより教養を高め，美術文化の向上を図り美術館活動を援助する。

昭和37年4月1日設置 会員154人

5. 観覧料・使用料

(1) 観覧料

区 分	観覧料			
	個 人	20人以上の団体	年間観覧券	
常 設 展	一 般	300円	1人につき240円	1人1年間につき600円
	大学生 高校生	200	〃 160	〃 400
	中学生 小学生	150	〃 120	〃 300
特別展	1人につき，2,000円以内で教育委員会が定める額			

(2) 展示室使用料

区 分	1日あたりの使用料	
	使用者が入場料金を徴収しない場合	使用者が入場料金を徴収する場合
一般展示室(1)	6,000円	7,800円
一般展示室(2)	7,700	10,000
講堂を展示室として使用する場合	2,000	2,600
展示ロビー	2,000	2,600

(3) 講堂・市民アトリエ使用料

区 分	午前9時30分 から午後1時まで	午後1時から 午後6時まで	午前9時30分 から午後6時まで
講 堂	1,500円	2,000円	3,500円
市民アトリエ (1)	1,400	1,600	3,000
市民アトリエ (2)	700	800	1,500

6. 収 蔵 品

(1) 内 訳 (平成24年3月末現在)

分 類	収 蔵 品			
	日本	外国	合計	
美 術	日 本 画	117	0	117
	油 彩 画	307	28	335
	水彩・素描	689	5	694
	版 画	168	642	810
	彫 刻	38	10	48
	空間造形	1	0	1
	品	陶 芸	226	10
工 木金工		16	0	16
ガラス		42	0	42
芸 その他		1	0	1
小 計		285	10	295
書		51	0	51
合 計	1,656	695	2,351	
資 料	421	7	428	
総 計	2,077	702	2,779	

(2) 平成23年度美術品収集状況

種 別	作 者 名	作 品 名
日本画	橋 口 五 葉	流水に花と蝶 他20点
油彩画	山 下 晴 道	SORA11-II - Aggregate -
油彩画	橋 口 五 葉	孔雀と印度女 他10点
水彩・素描	橋 口 五 葉	ペゴニアほか 他114点
版 画	橋 口 五 葉	此美人 他5点
彫 刻	安 藤 照	めじろ

科学館

市制100周年記念事業の一環として、図書館との複合施設として開館した。

鹿児島を代表する火山、ロケットなどを科学のテーマとして取り上げ、自然界の法則や科学技術及び宇宙を分かりやすく紹介し、新鮮で感動的な出会いをとおして、科学に対する青少年の夢や創造性を育み、併せて科学知識の普及向上を図っている。

平成24年度は、展示物を参加体験型のものに更新し、子どもから大人まで科学の不思議を楽しめる施設として平成25年3月にリニューアルオープンする。

1. 施設の概要

- (1) 開館 平成2年12月17日
 - (2) 所在地 鴨池二丁目31番18号
 - (3) 延床面積 5,981.34㎡
 - (4) 構造規模 鉄骨鉄筋コンクリート造，地上6階建
 - (5) 館内案内
 - 〔1階〕 管理事務室，中央監視室
 - 〔2階〕 科学館入口，飲食コーナー
 - 〔3階〕 展示ゾーン（鹿児島の自然），科学実験室，科学工作室，パソコン学習室，企画展示室
 - 〔4階〕 展示ゾーン（宇宙の探求と開発・環境と技術・コミュニケーション技術）
 - 〔5・6階〕 宇宙劇場
- ※1階から4階まではリニューアルにより，一部変更する。

2. 利用の案内

- (1) 開館時間 午前9時30分から午後6時まで（入館は午後5時30分まで）
 - (2) 休館日 火曜日（祝日，1月2日・3日の場合はその後の平日）
12月29日から1月1日まで
- ※展示場（2階～4階）は平成24年9月3日から25年3月下旬まで利用休止

(3) 料金

〈入館料〉

区分	個人	団体 (20人以上)	回数券 (11回分)
大人(高校生以上)	400円	320円	4,000円
小人(小・中学生)	150円	120円	1,500円

〈年間パスポート料金〉

区分 券種類	大人 (高校生以上)	小人 (小・中学生)
年間入館券	800円	300円
年間観覧券	1,000円	400円

〈宇宙劇場観覧料〉

① 一般投影

区分	個人	団体 (20人以上)
大人(高校生以上)	500円	400円
小人(小・中学生)	200円	160円

② 特別投影等 一人につき1,000円以内で教育委員会が定める額

③ 特別展示 一人につき1,000円以内で教育委員会が定める額

※未就学児は無料。ただし，宇宙劇場で座席を占有する場合，観覧料は有料（小人料金）

(4) 宇宙劇場上映時刻

- 第1回 10:10（プラネタリウム） 第2回 11:10（ドームシネマ）
- 第3回 13:10（ ） 第4回 14:10（ ）
- 第5回 15:10（ ） 第6回 16:10（ ）

※ 第6回は，日曜・祝日・第2・第4土曜日のみ上映

3. 特 色

(1) 科学展示（常設展示物74点）

「地球から宇宙へ」をメインテーマとして展示を構成し、自分で操作し、体験することのできる展示物を数多く設置して、新鮮で感動的な科学との出会いの場を提供する。

① 「鹿児島 naturally」ゾーン

地球の持つ自然エネルギーを、内部からのエネルギー（マンツルの熱）、外部からのエネルギー（太陽熱）に大別し、火山、地震、気象など、鹿児島で見られる自然現象のしくみとその利用を体験するゾーン。

（風の実験）（地震シミュレーター）（鹿児島ウォッチング）

② 「宇宙の探究と開発」ゾーン

宇宙開発の歩みや成果、宇宙空間の物理法則、太陽系の天体等を学び、さらに暮らしに利用されている技術を体験するゾーン。

（つるつるリンク）（太陽系惑星）（ロケットの発射）

③ 「環境と技術」ゾーン

ペットボトルや古新聞等のリサイクルによる環境保全や、厳しい環境で生きるためのさまざまな科学技術を体験するゾーン。

（暮らしと環境）（物質で考える技術）（極地体験）

④ 「コミュニケーション技術」ゾーン

アナログをデジタルに変える方法や先端技術のロボットなど、暮らしをとりまくコミュニケーション技術を体験するゾーン。

（人間に近づくロボット）（ハンドスキャンテレビ）

(2) 宇宙劇場

プラネタリウムと大型全天周映画（ドームシネマ）の上映を行う。プラネタリウムは、星空の生解説や学習投影、四季毎にテーマを変えて投影する一般投影のほか、子ども向け番組の投影も行う。

19年度に導入した光学式プラネタリウム投影機は約1,000万個の星を投影可能となり、より自然で美しい星空となった。また、全天デジタル映像システムにより、CG映像が投影可能となり、これまでのスライド投影では実現できなかった立体感や臨場感を体験出来るようになった。感動的な映像を体験できるドームシネマは、科学に関連した内容の番組を上映する。

〔規模〕ドーム径 23m 座席数 286席 傾斜角 30度

(3) コンピュータシステム

4つの展示ゾーンに6台のコンピュータを設置し、各コーナー毎に特徴のあるソフトを使い、クイズ形式やゲームを通して科学に対する事項を楽しく学習することができる。端末の操作は、キーボードではなく、マウスを使って子どもから高齢者まで誰もがコンピュータに親しめるように配慮する。

(4) 夏の科学教室

科学にふれ合い、科学する心を養うため、夏休みに実験・工作・パソコンの操作や天体望遠鏡作りなどの科学教室を実施する。

(5) 出前教室

市内外の教育機関や企業等の要請に応じて館外へ出かけ、実験ショーや天体観望会を実施する。

(6) 特別教室

学校行事や親子活動等、団体入館者の要望により、実験・工作等を実施する。

(7) サタデーワークショップ

科学実験・工作・ペーパークラフト作りを週替わりで体験できるワークショップを毎週土曜日に実施する。

(8) サイエンスショー

幼児から大人まで楽しめる体験型の実験ショーを毎日実施する。

(9) チャレンジ工作

入館者を対象に、短い時間で誰もが簡単に挑戦できる科学ものづくりを毎日実施する。

(10) その他のイベント

〔主催〕

- ① こいのぼりを作ろう 4/19～5/6
こどもの日に向けて、園児の協力をもらい、2階エントランスに鯉のぼりをあげて雰囲気づくりを行う。
- ② こどもまつり 5/5
中学生以下の子どもたちに対して、入館料を無料にし、科学実験ショー等を実施する。
- ③ プラネタリウム「星と音楽の夕べ」 5/19・8/4・10/27・2/16
プラネタリウムでの星空散歩と著名な歌手のCD音楽を楽しんでもらう。好天の場合は屋外での星空観望会も実施する。
- ④ 金環日食講座 4/7・4/21・5/19
5月21日の金環日食の県本土での見え方や観測方法などを紹介する講座を実施する。
- ⑤ 金環日食観察会「金環日食を見よう！」 5/21
金環日食の観察会を実施し、希望者には日食メガネの貸し出しを行う。
- ⑥ 金星の太陽面通過を見よう！ 6/6
6/6の金星の太陽面通過の観望会を実施する。
- ⑦ セタかざり 6/7～7/8
セタにちなみ、入館者が書いた短冊やかざり等を園児の協力をもらい、かざり付けを行う。
- ⑧ 夏休み特別企画展 「体験！のりものランド」7/21～9/2
「自動車」「鉄道」「飛行機」「宇宙」の乗り物をテーマにした体験型イベント。SL人吉号模型で運転手になったり、消防車やパトカーの子ども用乗り物に乗ったり、スタンプラリーに挑戦できる。
- ⑨ 「かごしまおもしろ科学フェスティバル2012～青少年のための科学の祭典～」7/28・7/29
県下の理系学校の教育関係者等を講師とする実験・工作ブースを30程度設置し、来場者に科学の不思議や楽しさを体験してもらう。
- ⑩ 宇宙飛行士「山崎直子」講演会 9/23
プラネタリウム番組「さよならスペースシャトル」の投影後、山崎直子氏の講演会を実施する。
- ⑪ セグウェイ体験試乗 毎月第一土曜日
電動立ち乗り2輪車セグウェイの試乗体験を実施する。

〔共催〕

- ① 「ワクワク・どきどき楽しい親子科学教室」 8/3・8/10
各公民館において募集した親子を対象に実験教室を行う。(吉野・城西公民館との共催)
- ② 白瀬南極探検100周年企画「南極展」4/28～5/6
白瀬隊の記録映画上映、南極観測隊OBのミニ講演会や南極関連のパネルや岩石などの展示を行う。
(南極OB会九州支部との共催)
- ③ 白瀬南極探検100周年企画「映画と講演のつどい」5/5
ドームシネマ「南極大陸」の上映後、「南極越冬隊タロジロの真実」の著者北村泰一氏の講演を行う。
(南極OB会九州支部との共催)
- ④ キッズプラネタリウム～おはなし会 6/16
子ども連れの家族を対象に、プラネタリウムでの子ども向けの星空紹介と、おはなし会&生演奏を実施する。(市立図書館との共催)
- ⑤ 鹿県電波適正利用推進員協議会開催の教室 7/1
協議員の指導による、AMラジオ製作教室を実施する。(鹿県電波適正利用推進員協議会との共催)
- ⑥ 鹿児島高専の日 8/19
鹿児島高専の各学科による実験工作やロボットの展示などを行う。(鹿児島工業高等専門学校との共催)
- ⑦ 高校ロボコン鹿児島県予選 8/24
全国高等学校ロボット競技大会に向けた鹿児島県予選を後援し、科学館長賞の授与を行う。(鹿児島県高等学校校長協会工業会)

- ⑧ 宇宙の日作文・絵画コンテスト 募集：5月～7/31 表彰：9/23
宇宙をテーマに作文や絵画を募集し、審査・表彰を行う。(文部科学省との共催)
- ⑨ CGアートコンテストCOSMO'12 6月～8月
宇宙をテーマにしたCGコンテストを後援し、科学館長賞の授与と入賞作展示を行う。
(CGアートコンテスト実行委員会との共催)
- ⑩ リラクゼーションインプラネタリウム 10/12
一般勤労者を対象として、星空紹介と医師等による講演を行う。(鹿児島市保健所との共催)
- ⑪ 考古館寺子屋
ふるさと考古歴史館にて、夏の星座紹介と望遠鏡による惑星などの観察を行う。
(ふるさと考古歴史館との共催)
- ⑫ ふしぎなおもちゃづくり 2/24
忍たま乱太郎の着ぐるみ劇の前に科学のおもちゃづくりを楽しんでもらう。
(谷山サザンホールとの共催)
- ⑬ コズミックカレッジ キッズコース・ファンダメンタルコース 8/24・8/25
小中学生を対象にJAXA認定の宇宙教育リーダーによる宇宙に関する実験・工作を行う。
(文部科学省後援・JAXAとの共催)
- ⑭ 「科学する心」を見つけよう写真展 7/21～9/2
ソニー教育財団「科学する心」を見つけようフォトコンテスト入賞作品を展示する。
(ソニー教育財団との共催)
- ⑮ JAXAテレビ 通年
平成22年1月10日に締結した鹿児島市教育委員会とJAXAとの協定に基づいて、JAXAから提供された映像を放映する。(JAXAとの共催)
- ⑯ サイエンスモニター 通年
科学のおもしろさ・ふしぎさを手軽に味わってもらえるように、JST放送のサイエンスチャンネルから該当する作品を選定し、館内で放映する。(JSTとの共催)
- ⑰ 最新宇宙情報の提供 通年
人類の宇宙活動、日本の宇宙活動についての最新情報をJSF(宇宙フォーラム)から提供してもらい利用展開をする。(JSFとの共催)
- ⑱ おもちゃ病院 毎月第3日曜日
おもちゃ病院の先生方に、来館者が持ってきたおもちゃの修理等をしてもらう。
(かごしまおもちゃ病院との共催)

4. 利用者実績

(単位：人)

年 度		H18	H19	H20	H21	H22	H23
入館者	有 料	80,312	89,722	87,126	65,442	73,479	64,496
	無 料	53,938	57,880	54,751	44,944	75,786	55,617
	計	134,250	147,602	141,877	110,386	149,265	120,113
観覧者	有 料	42,565	65,981	58,105	44,173	51,096	42,282
	無 料	8,005	12,117	12,157	8,808	15,308	9,682
	計	50,570	78,098	70,262	52,981	66,404	51,964
合 計		184,820	225,700	212,139	163,367	215,669	172,077

※ 「無料」は免除者も含む。

鹿児島市民文化ホール

1. 施設の概要

- (1) 開館 昭和58年2月6日
- (2) 所在地 与次郎二丁目3番1号 (TEL257-8111 FAX251-4053)
- (3) 建設規模
 - ① 敷地面積 48,271.51㎡ (文化公園を含む)
 - ② 建築面積 8,150.62㎡
 - ③ 延床面積 19,689.29㎡
 - ④ 構造 鉄筋コンクリート造, 一部鉄骨造
 - ⑤ 規模 地下1階・地上5階
- (4) 利用状況 (平成23年度)
第1ホール 254,268人 第2ホール 127,957人 市民ホール 34,567人

2. 施設の案内

- (1) 第1ホール
音楽的催しに重点を置く多目的ホールで客席数1,990席 (他に車いすスペース8席)
- (2) 第2ホール
演劇の催しに重点を置く多目的ホールで客席数952席 (他に車いすスペース6席)
- (3) 市民ホール
約400人収容の平土間形式の会議室兼用のホール
- (4) 練習室
- (5) 会議室, 和室
- (6) 展望ギャラリー
- (7) 駐車場 駐車台数 373台

谷山サザンホール

1. 施設の概要

- (1) 開館 平成元年10月20日
- (2) 所在地 谷山中央一丁目4360番地 (TEL260-2033 FAX267-4256)
- (3) 建設規模
 - ① 敷地面積 6,933㎡
 - ② 建築面積 3,320㎡
 - ③ 延床面積 5,970㎡
 - ④ 構造 鉄筋コンクリート造, 一部鉄骨造
 - ⑤ 規模 地下1階・地上2階
- (4) ホール利用状況 (平成23年度)
49,000人

2. 施設の案内

- (1) ホール
客席数800席 (他に車いすスペース6席)
- (2) 練習室
- (3) 会議室, 和室
- (4) 市民ギャラリー, 展示室
- (5) 駐車場 駐車台数 74台